

フェアトレード産品における品質に関する研究 バニラビーンズを事例にとって

中村 仁美

キーワード： フェアトレード、バニラビーンズ、品質、香気分析、アンケート調査

1. 研究の背景と目的

日本においても、より公正な国際貿易の実現と、また南の疎外された生産者や労働者の人々の持続可能な発展を目的とした「フェアトレード」が広まりつつある。今や日本国民の半分近くが「フェアトレード」という言葉を耳にしたことがあり、またスターバックスやイオンなどの企業もフェアトレード市場に参入している。しかし日本のフェアトレード市場は世界のそれに比べてずいぶん小さく、フェアトレード先進国と比較しても普及が進んでいない状況であると言えよう。その理由のひとつとして、フェアトレード産品の品質が日本人の求める品質に達していないことが推測される。そこで本研究にて、従来の生態系との親和性も高くまた労働集約的であるため少ない生産コストで栽培が可能なバニラビーンズに関して、フェアトレード産品の品質分析を行うことで、日本においてさらにフェアトレードを普及させるための手段を考える。

2. バニラビーンズの香気分析と水分量の測定、フェアトレード団体に対するアンケート

まずバニラビーンズの品質を左右する大きな要素である、香気化合物について成分分析を行った。6カ国でそれぞれ生産されたフェアトレード産品と非フェアトレード産品のバニラビーンズ合計 18 種類を対象として、バニラ香気を形成する 500 種類以上の化合物の中から含有量が多い化合物 4 種類 (vanillin, vanillic acid, p-hydroxybenzaldehyde, p-hydroxybenzoic acid) の濃度を測定した。各香気化合物の含量に関しては、フェアトレード産品と非フェアトレード産品の間に大差が見られなかった。また、フランスやアメリカでバニラ香気の評価を評価する際の一つの指標となっている、各香気化合物の含有量比に関しては、フェアトレード産品の方が非フェアトレード産品と比べて品質が良いと判断できる範囲に収まる値を多く記録した。

しかし、水分量に関してはフェアトレード産品の方が非フェアトレード産品と比べて低い値をとったことより、生産工程以降にフェアトレード産品を扱う者（輸出業者・輸入業者・卸業者・小売業者）の品質管理が徹底していない可能性が推測された。日本国内でバニラビーンズのフェアトレードに従事する事業者 5 団体を対象にアンケートを行ったところ、現地での生産指導には力を入れているところはいくつか見られたが、日本国内での品質管理に力を入れていると回答した団体は 1 つしか存在しなかった。

3. 結論

フェアトレード産品の品質においては、従来から重視されてきた現地での生産指導と同様に、フェアトレード産品の取引に従事する全ての中間業者が管理を徹底することが大切であると言えよう。バニラビーンズにおいて、生産者が行う作業工程に由来する品質（香気成分）に関しては、非フェアトレード産品と大差は見られなかったが、それ以降の輸出業者、輸入業者、卸業者、小売業者に由来する品質（水分量）に関しては非フェアトレード産品とは明らかな差が見られた。包材の選定や商品管理条件（温度・湿度・日射状態・酸素等）が不十分であった可能性がある。

今後は、他のフェアトレード産品に関しても同様の調査を行うことが推奨されるのと同時に、フェアトレードのネットワーク団体などが中心となり各フェアトレード産品の品質に関するガイドラインを作成するののも一つの有効な手段であると考えられる。